

東広島市 秋満載情報

イベント(9月~11月)

時期	名称	問い合わせ先
9月23日(日)	けんみん文化祭 2010東広島地区文化祭	東広島市文化連盟 082-424-1047
10月2日(土)、3(日)	第11回アクアフェスタin福富	アクアフェスタ実行委員会 082-435-2051
10月末頃 (収穫時期に合わせて)	さつまいもの収穫体験	福富物産しゃくなげ館 082-435-3533
10月9日(土)、10日(日)	2010酒まつり	酒まつり実行委員会 082-420-0330
11月6日(土)、11月7日(日)	生涯学習フェスティバル	教育委員会生涯学習課 082-420-0979
11月6日(土)、11月7日(日)	火とグルメの祭典 '10あきつフェスティバル	あきつフェスティバル 実行委員会(安芸津史書) 0846-45-1623
11月中旬	エゴマ祭り	福富物産しゃくなげ館 082-435-3533
11月28日(日)	東広島市民ミュージカル 西条会場	東広島市民ミュージカル 制作実行委員会 080-2914-3765
毎月第3日曜日	並滝こもれびの会	(社)東広島市観光協会 082-420-0310
毎月4日	西条四日市	まちづくりくらし織り人 082-422-4413
毎月10日	酒蔵の町 てくてくガイド	観光協会西条駅前案内所 082-421-2511
毎週日曜日	DISCOVER WESTハイキング 西条酒蔵めぐりコース	観光協会西条駅前案内所 082-421-2511
毎週土日祝	ようこそ釀華町西条	観光協会西条駅前案内所 082-421-2511

東広島市民ミュージカル

東広島市民ミュージカル実行委員会事務局 TEL:080-2914-3765



東広島市民ミュージカル

東広島市民ミュージカルは、一般公募により集まった市民の参加者・スタッフにより、西条・黒瀬会場はミュージカル、豊栄会場は映画の制作を行っています。今年度は黒瀬会場12回目・豊栄会場8回目・西条会場4回目を迎える。小学1年生~70代の他地域や年齢を超えた交流を体験し、「明るく!楽しく!元気よく!」を合言葉に、全員で一つの公演・上映という目標に向かい作品を創り上げます。また、観に来て下さる方に感動と元気を与えられるよう、約6か月間の練習に精一杯取組んでいます。

東広島市民ミュージカル
実行委員長
いえもり たてあき
家森 建昭さん

東広島NEWS

東広島市観光協会会報
社団法人東広島市観光協会
〒739-0025 東広島市西条中央7-23-35
TEL(082)420-0310.FAX(082)420-0329
URL <http://hh-kanko.ne.jp/>
E-mail office@hh-kanko.ne.jp

vol.21 2010 秋



2009酒まつり写真コンテスト入選作品『Dancing Princes』TURNER Guadalupe撮影

トピックス

●酒まつりエコプロジェクト

宣言します!2010酒まつりはみなとともにエコについて真剣にとりくみます

ゴミを出したあなたが直接リサイクルステーションへ持って行き、スタッフの指示のもと処理しましょう。キレイな酒まつりを実現し、笑顔あふれる地域にしましょう。

酒まつりでは地球にやさしく、参加者のみなさんが誇りを持てるまつりを目指すために、ゴミリサイクルへのご協力をいただくようにお願いを申しあげます。

2年前よりゴミステーションを会場内外に設け、ゴミ減量に努めてきました。今年はさらにリサイクルへチャレンジします。数年後にゴミゼロのまつりを目指せるように皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。詳しくは、酒まつりHPよりご覧ください。

2010年7月7日 2010酒まつり実行委員会

●2010ひがしひろしま音楽祭

今年で4回目を迎えたひがしひろしま音楽祭。平成22年6月12日(土)、13日(日)の2日間にわたり、開催された。幼児から一般の社会人までの50団体、総勢1,000名が出演。2日間で約5,000人の観客があり、吹奏楽や合唱をはじめ、さまざまなジャンルの演奏を楽しんだ。

初めての試みで公民館ロビーを利用し、“ドレミ広場”と銘打って、より身近に気軽に音楽と触れることができるロビーコンサートや喫茶コーナーを企画し実施した。大学生によるJAZZやフォーク、楽器を体験できる“楽器に触れよう！”は親子で盛り上がった。大学生、一般演奏団体、実行委員会約200名のボランティア、協賛企業様に支えられて盛会に終えることができた。

『音楽祭応援ステキWEEK』と題し、酒蔵やカフェでのミニコンサートの開催やお店の期間限定サービスの実施。地元商店も一緒に盛り上げた！昼ドキ音楽隊として、うたごえ等で楽しみながら音楽祭や酒蔵コンサート、店舗の宣伝も行った。

なお、今年は音楽のまちづくりに取り組んでいる東広島市より「共催」の冠をいただいたが、今後は行政と一緒に“市民祭”として定着させていきたい。



ひがしひろしま音楽祭



ドレミ広場



音楽祭応援ステキWEEK

●第4回東広島観光展



四季折々の伝統行事紹介の展示ブース。在学生をはじめとし、市民の方にも多く足を運んでもらい、期間中1,539人の来館があった。今年は東広島市に残る自然に注目し、動植物に焦点をあてた企画展や四季折々の伝統行事・イベントの写真展などを紹介した。恒例になった物産市も、各地域よりバラエティに富んだ特産品を販売した。また、開催時期が七夕の季節であることから、短冊に願いを書きこめる参加型コーナーも人気があった。



イベント写真紹介

●東広島アザレアフェアリイ活動報告

夏ならではの派遣が多く、安芸津祇園祭や安芸津の住吉花火大会に参加した。安芸津祇園祭では、商店街では、それぞれの店舗にて見立て細工が施してあり、興味深い地域のまつりでした。また、住吉花火大会では、海上に上がる花火を見学しながら、海を持つ東広島市の魅力をあらためて再発見した。アザレアフェアリイに就任してからもうすぐ1年間。任期も、残り1年になるので、体験を活かす一方で、新たなことにも挑戦し、東広島市のPRを精一杯努めたい。



見立て細工作品



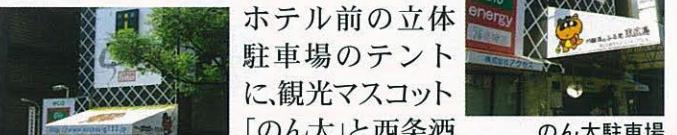
住吉花火大会



見立て細工作品

●東広島市観光マスコット「のん太」が広島市の立体駐車場にて東広島市をPR

観光協会の会員の株式会社アクセス(安芸津町、バイオマス燃料の製造販売、CO₂削減:カーボンオフセット事業、平面製造販売・土地有効活用事業など)が、広島市の城南通り、パシフィックホテル前の立体駐車場のテントに、観光マスコット「のん太」と西条酒のロゴマークで、東広島市をPR。



のん太駐車場

●酒まつり開催に向け、準備に邁進中

年々、人気の高まる酒まつり。今年も10月9日(土)、10日(日)に開催される。今年で21回目を迎える。テーマを「チャレンジ」とし、新たな気持ちで様々なことに取り組んでいる。大きな挑戦として、エコプロジェクト(表紙参照)、広島大学会場の継続(酒まつりと伝統芸能フェスティバルのコラボ企画)など。今年も盛りだくさん！また、忘れてはいけないのが、このまつりを支えている、2日間で500人を超えるボランティアスタッフ。実行委員会メンバーをはじめ、大学生、企業の方など年代も、業種もさまざまだが、ボランティアで作り上げていく祭りだからこそ、地域に根ざした、他にはないユニークなまつりとして注目されている。開催まであと少し。実行委員会も佳境に入ったが、一致団結してまつりの成功に向け、進んでいきたい。



酒まつり準備の模様



酒まつり準備の模様

吟醸酒のふる里 東広島

まだ学生だった頃、無理して飲んだ酒が祟ったのか、私は日本酒がまったくの苦手で口にすることのない酒でした。そんな私が40歳を超えて東京に居た時に、初めて口にした日本酒が「純米吟醸」という酒でした。それまでの私の日本酒のイメージを一変させたその酒は、「秋田で生まれた酒」と聞いたことから、この東広島の地に住むようになつても、そうだと思っていました。

吟醸造りを全国に広めた
広島杜氏の里 安芸津 酒蔵通り大吟醸を生んだ近代醸造の泰斗
SAKAGURADORI

酒蔵と水の郷

JR西条駅北の御建神社にある
「木村静彦」像西条朝日町の西条酒造会館前の
「橋爪 陽」像

そんな私がある本と出会ったのです。

「吟醸酒を創った男」(池田明子著)…明治の時代に生きた安芸津の酒造家「三浦仙三郎」の半生を描いた小説です。この本を読んで、初めて「広島で生まれた酒」と知ったのです。でもひとつの疑問が生まれました。

それは「吟醸造り」という醸造技術を生み、その技法を全国に広めた三津杜氏(現在の広島杜氏)を育てたのは、この人に間違いない。だが、もうひとつ何か大きなものが欠けているような気がしたのです。それがもとでいろいろ調べ始め、私のデビュー作となった「陸を行き交う樽廻船」を書くことに繋がったのでした。

吟醸酒になるには、もうひとつ高度な精米技術が必要です。それに「酒造好適米」と呼ばれる酒米の品種改良も…。こうした技術が合わさって、今日の吟醸酒と呼ばれる新しい日本酒に繋がっていくわけですから。

広島県中央地域にある東広島市は、標高200～400メートルの高所に多くの水田があり、夏の昼夜の気温差が大きいことから、酒米に向く米ができる所でした。

そのため、明治43年にできた県立西條農学校と農事試験場において、酒米の研究が行なわれ、



西条の町工場では精米機の開発が行なわれていたのです。

そうした中で、発酵に適した地下水にも恵まれ、鉄道という近代の輸送手段も得た旧「西條」の町に、多くの酒造業者が生まれ、鉄道に沿って三つの酒造会社まで設立され、昭和の初めには県醸造試験場の清酒専門の研究所が町の中に出来て、「酒都西條」と呼ばれる近代酒造業の町が生まれたのです。



この安芸津や西条をはじめ、市域北部の酒米生産地域や水の郷、東広島市の市域全体が「吟醸酒のふる里」であると知りました。全国清酒品評会で数々の賞を総なめにした「広島県酒」の中心がこの地であったのです。その功労者の銅像「三浦仙三郎」「木村静彦」「橋爪 陽」(広島県酒の三恩人)が、東広島市域に建てられています。皆さんも一度訪ねてみてはいかがでしょう。

松木 津々二 (まつぎ つつじ)
本名 木村 浩男

S30 広島県東広島市生まれ

S49 高校卒業後、大学時代は名古屋。その後流通業界に勤務し、名古屋、大阪、東京、横浜で暮らす。

H11 (社)東広島市観光協会理事に就任。

H17 『陸を行き交う樽廻船』を出版。

H18 『昭和初期の酒蔵通り』を作成。

H20 『西条四日市町並歴史年表』を作成。

H21 『近代醸造史』を作成出版。

現在に至る。

